

カトリック

新潟教区報



司祭の集いが開催されました

新潟司教 パウロ 成井 大介



6月6日から8日、山形県寒河江市のホテルを会場に、新潟教区司祭の集いが行われました。コロナ禍で過去2年間中止されていたため3年ぶりの開催で、25名が現地に参加、3名がZoom参加のハイブリッド会議となりました。私にとっては初めての参加で、着座して初めて新潟教区で働く司祭の皆様と一堂に会し、ともに祈り、話し、学び、食べるといっても大切な時を過ごしました。

一日目の午後と二日目の午前は、司教協議会典礼委員会から神言会の市瀬英昭神父様を迎え、新しいミサの式次第について学びました。この教区報がお手元に届く頃、きっと各小教区では11月27日の新式次第の使用開始に向けて準備を進め、変更箇所を確認しておられる頃だと思えます。市瀬神父様は、「決められたことだからただそれに従う」のではなく、「一緒に考え、理解を深め、典礼を豊かにしていく」という姿勢が大切だとおっしゃいました。信徒も、司祭も、司教も、しばらくの間

は新式次第の冊子とにらめっこしながらミサに参加することになるでしょう。新しく翻訳された言葉に違和感を覚え、落ち着いて祈れないという方も多くおられるでしょう。でも、この機会に、普段何気なく唱えていたミサの言葉や動作の意味を意識してみてください。市瀬神父様はこんなことを言われました。「開祭では、神から集いに呼ばれる。招かれています。それはうれしいことでしょう。そして神の言葉を聞く。もし言葉がかけられないで育つ子どもがいたら、それはネグレクトでしょう。みことばの祭儀で、わたしたちは神から言葉をかけてもらっています。」この待降節が、神から言葉をかけていただくこと、主の食卓に招かれることの喜びを、新鮮な気持ちで味わう良いときとなるよう祈っています。

二日目の午後と三日目の午前は、新潟教区の司牧体制について現状を確認して共通理解を深め、今後どのようなあり方が望ましいのか意見交換しました。

ご存じのように、新潟教区では伝統的に秋田地区を神言会が、山形地区をイエズス・マリアの聖心会が、新発田地区を神言会が、長岡地区をフランシスコ会が、そして新潟地区を教区司祭が担当してきました。しかし現在は新発田地区は教区司祭の担当となり、山形、長岡地区には、

修道会司祭に加え、教区司祭、または教区からの依頼によって派遣された司祭が任命されています。修道会単位での司牧という地区の最も大きな位置づけが秋田を除き無くなった今、地区にどのような役割が求められているのでしょうか。

これまで、地区における大切な役割の一つは信徒養成で、信仰養成に関する講演会を開いたり、集会祭儀の司会者や聖体授与の臨時の奉仕者の養成が行われています。しかし、地区によって実施できるところもあれば、そうでないところもあります。

また、小教区のレベルでは、司祭の減少に伴い一人の司祭が複数の教会を担当するケースが増えてきました。司祭だけでなく、隣接する教会の信徒同士が協力して活動を進めていくことが期待されています。特に海外出身の信徒や青年の間では、小教区や地区にとらわれない活動が増えてきています。

小教区や地区に求められる役割は、それぞれが置かれた状況によって違ってくるのかもしれないかもしれません。この秋には、新潟教区宣教司牧方針策定に向けた意見交

換を、小教区、奉獻生活者の会共同体、地区でお願いしていきますが、その中の一つのテーマは地区と小教区の役割になります。ぜひ皆様の状況でどのようなことが期待されるのか、話し合っていたらと思います。皆さんで、ともに、今とこれからの新潟教区にふさわしい宣教司牧方針を作っていけたらと願っています。これからもシノドスの歩みを続けて参りましょう。



山形県寒河江市会場にて 2022.6.6

連載 平和を実現する人々の幸い

至福への道 第3回 「神にしたがう者の平和」①
「主よ、わたしたちの主よ。あなたの御名はいかに力強く、全地に満ちていようとすべし」(詩編8・2)

私たち人間の「体」は、「地の塵」(創2・7)を素材として構成されています。現代の科学はその「塵」に相当するものが、「原子核」よりも極微な「光子」や「電子」などの「素粒子」であることを発見しています。教会はこの「事実」を認め、四旬節の開始を告げる灰の水曜日に信徒の頭に灰をかけ、「あなたは塵であり塵に帰ってゆくのです」と唱えます。

無限の智慧と永遠の大能によって「無」から「地の塵」を造られた神は、その「地の塵」をもって万別千差の形態を生み出して世界を創造され、それらを通して、至善・至美・至愛、至聖・至福・至純、永遠の命・真理の霊・まことの光としてのご自分のご本質を、「愛のあふれ」として世界に顕し示しておられます。

聖パウロはそのことを、「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます」(ローマ1・20)(知恵7・22-30)と記しました。

ところで、「地の塵」に過ぎない私たち「人間」を、絶えず「神の似姿」としてまとめ上げるために、私たち一人ひとりの「中」でその「求心力」となって働いて下さっているのは、その「内に命」と「光」をもつ

た、「霊」(ヨハネ4・24)であり「光」(1ヨハネ1・5)である、神の「言」なのです。

すなわち、「神は言われた。『光あれ』。こうして光があった」と創世記1章に記されているように、神の「み心」の中にある「光」という「觀念」が言葉として発せられるとき、その「言葉」が指し示しているところのものは、具体的な「形」として具象化され「実現」されていくのです。

このように、「創造する力」のある「神の大能」が、神の「言」なのです。聖ヨハネは、この「言」は「初めに神と共にあった」「神」であり、「万物は」はこの「言」によって成り、「成ったものは何ひとつなかった」(ヨハネ1・1-4)と啓かしています。すなわち、神の「言」には、ご自分が原因となり目的として「生み出したもの」を、その成長に添って導いていく「力」があるのです(ヨハネ15・2b)。

預言者イザヤは、「わたしの思いはあなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なる」と、主は言われる。『わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくはわたしの望むことに戻らない。それはわたしが与えた使命を必ず果たす』(イザヤ55・8-11)という言葉を神から与えられています。

したがって、この地上において、「地の塵」を具体的な「人間」の「形」に整えて「体」とし、その中に「命の息」(創世記2・7)と「魂」を入れて(カテキズム359)「神の似姿」(カテキズム363)とし、それによって私たち一人ひとりを「深甚で広大な内面」、つまり「意識」を有する「人格的な存在」(カテキズム357)にして下さっているのは、実に私たちの中で絶えず働いておられる、神の「霊」「光」「命」である「言」なる「お方」なのだ、ということになります。

そのような「造り」になっている私たち「人間」について、「カテキズム」355は次のように教えています。

「神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」(創世記1・27)。人間は被造物の中で比類のない地位を占めています。というのは、『神にかたどって』造られるのは、『神に似たもの』として、その独自の本性の中に、霊的世界と物質的世界とが一つになっており、『男と女』に造られ、神との親しい交わりにあずかれるようにしていただいているからです。

更に358では、「このような配慮に包まれて存在し始めるのは一体何者か」と「問い」を發し、直下に「それは人間です」と即答しながら創世記1章に思いを馳せ、「人間は神の

御目には他のすべての被造物にまさって貴重」で「偉大で感嘆すべき生きもの」であること、「天も地も海も、ありとあらゆる被造物が存在するのは人間のため」であることを、私たちに思い起こさせています。

ところで、このような天地創造のみ業を聞いて育った旧約の詩人は、あるとき、「今も働いておられる神」(ヨハネ5・17)への深い集中と瞑想による祈りの中で、「魂の目」(詩編119・130)が開かれ、創造主への崇高な賛美の詩を、すべての被造物との一体感のうちに書き残します。

「主よ、わたしたちの主よ。あなたの御名はいかに力強く、全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます」「あなたを仰ぎます。そのあなたが目をかけてくださるとは人間は何ものなのでしょう。人とは何ものなのでしょう。神に僅かに劣るものとして人を造り、なお、栄光と威光を冠としていただかせよ」(詩編8)。

「話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくとも」(詩編19・2-5)、「被造世界」のすべてに余す

ところなく「通底」し「響き渡って」おられる「わしはある」(：出エジプト3・14)という「お方」の「永遠の命と愛」、そこに「目覚めて」(コロサイ4・2)いくこと…。

すなわち、私たちの中で働いておられる「神」は、日常生活では「覆われ」、「隠され」(イザヤ45・15)ではいるけれど、「魂を沈黙させ」(詩篇62・2、6)、絶え間のない「祈り」と「瞑想」と「愛の業」(1ヨハネ4・8)によって「求め探したたいて」いくならば(ルカ11・9)、いつしかその「覆い・COVER」は「外され・DIS」るようになり(列上19・12)、やがて、「神からの愛」「神への愛」、「平和・喜び」(ガラテヤ5・22)、「真理の霊」(ヨハネ4・24)によってのみ「鼓動」している「永遠の命にいたる水がわき出る泉」(ヨハネ4・14)への「道」(マタイ7・14)が、私たちの中の「神を探し求める真実の自己」において、見出されるようになるのです。(つづく)



新潟教区司教座聖堂のステンドグラスの一つです。これは「佐渡の無名殉教者の百人塚」をあらわしたものです。新潟教区では数年に1回巡礼を計画しお祈りしています。

ひとりで悩まず
わたしたちにご相談ください
カトリック新潟教区
セクシャル・ハラスメント相談窓口
司祭・修道者による未成年者性虐待とセクシャル・ハラスメントについての窓口です
TEL 080-8912-8758
受付 毎週火曜日 13:00~14:00 (除く祝祭日)

「新潟カトリック女性の会」 歩みと活動

会長 テクラ高橋 庄司末利子

現在の「新潟カトリック女性の会」は、「新潟地区カトリック婦人連合」として1981年秋に産声をあげました。1988年に「日本カトリック女性団体連盟」(世界カトリック女性団体連盟からの要請に对应、1974年創設。9月正式加盟。女性のNGO団体である国際婦人年連絡会に加盟。2001年2月には日本司教協議会公認団体として認可)の総会に初参加、準会員を経て1994年正式に加盟しました。そして「日本カトリック女性団体連盟」は2000年、女性と子供の人権保護活動をする施設を支援するための基金「いのちを守る運動基金」(メイちゃん募金)を設立。2004年から「新潟カトリック女性の会」は上越市の母子生活支援施設「みこころ荘」を申請し、(メイちゃん募金)の募金活動を行い、今日まで支援金をいただいで、お届けしております。

「新潟カトリック女性の会」という今日の名称になったのは2010年からです。2018年には「日本カトリック女性団体連盟」の総会が新潟で開催されました。全国から80余名が参加し、当時の新潟カトリック女性の会の会員数は118名と他団体に比べ小規模にもかかわらず、無事成功裏に終わったことは、記憶に新しいと思います。

新潟カトリック女性の会の活動は、会則の目的である「会員相互の

霊的向上のため」に、講演会や黙想会・巡礼(昨今コロナ禍で休止)などを行い、「互いに助け合って、人々にキリストの愛を伝えるために社会的貢献をする活動」である献金活動、寄付などを中心に活動しております。会員の皆様はもろろんと、小教区の皆様、神父様方の協力を得て、途切れることなく今日に引き継がれております。

現在の会員数は102名です。青山、亀田、新発田、白根、寺尾、新潟、新潟、花園、の各教会に所属する信徒が中心ですが、毎年その数は減少しています。指導司祭である大瀧浩一神父様のもと、毎月1回、各教会の役員が集まって新潟教会で定例会を行い、年2回会報を発行し、日力連の会報も届けられ、各小教区会員の皆様に配布し、広報活動をしていきます。

今年、5月5日に叙階されたばかりの岡秀太神父様に早速お願いして、初ミサ・講演会を開催しました。7月20日に新潟教会で、第7波のコロナ禍に不安がありました。暑期中30名の会員の方々が集まってくださり、無事終えることが出来ました。2年半ぶりに皆様と集い、ともに岡神父様の叙階を喜ぶこともあつたこと、心一つにして祈ることが出来たこと、心から嬉しく、神様に感謝いたします。

9月からは、各小教区で「フードバンクにいがた」への寄付を予定し

ております。昨年は初めての試みで、大変多くの寄付品をいただき、贈呈することが出来ました。昨年同様、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

コロナ禍で危ぶまれた「日本カトリック女性団体連盟」の第48回茨城総会も2022年5月9、10日、さいたま教区カトリック水戸教会で開催されました。その時の山野内司教様の基調講演で「見て見ないふりをし、自分の殻に閉じこもり、自分の立場を維持しようとする世界にとどまるのではなく、人の苦しみに寄り添い、その世界に入って、新しい将来を築くように」とのお話がありました。これからも神様に信頼して、新しい将来のために、一歩を踏み出さなくてはと心を強くいたしました。その一歩はわずかかもしれませんが、気分わずにゆっくり歩めば少しは進むでしょう。現に、「新潟カトリック女性の会」も今秋で創設41周年を迎えます。



2015年 祈りの旅 那須へ

今後とも教会の皆様のご支援、お祈り、よろしくお願ひいたします。

秋田地区

成井大介司教様 土崎教会訪問

2022年6月19日



司教ミサには大勢の信徒から参加を希望する声が聞かれましたが、コロナ禍ではこの着座間隔が限界でした。空いているように見えても満員です。



成井司教様を囲んでの記念写真。皆さんとても良い笑顔です。

成井大介司教様の土崎教会訪問が実現しました。コロナ禍のため2回訪問が延期され、「3度目の正直」となりましたが、待ちに待った司教訪問でした。

司教ミサに与る喜びに満たされ、ミサ後にも信徒へのお話があり、その中では、信徒からの質問にも応える楽しい一時もありました。待ちに待った司教訪問は、とても充実した一日となりました。

訪問後は、「司教様のお話をもっと聞きたかった」「信徒会館でざっくばらんに懇談をしたかった」等々の多くの声が聞かれました。

来年はいつ訪問していただけるのかなあ?と、今からとても気がかりです。

長岡地区

長岡地区大会に参加して

高田教会 セシリア武田陽子

5月29日、長岡地区信徒大会がオンラインで開催され、参加させて頂くことができました。大型バスを繰り出して大移動で実施するフェイストゥーフエイスの大会も長らく続くコロナ禍では、すっかり遠く懐かしいものになりました。開催教会のお母さん方が振る舞って下さる味噌汁が美味しかったのですが、もうそんな日々は戻らないのでしょうかね。とはいえ、一日家を空けるのは難しいので私はオンライン、結構助かります。それもパソコンとか接続とかが得意な信徒さんのお陰ですから、とにかく感謝です。新潟教区でオンライン開催ができてるのは長岡地

区だけとのことですから優秀ですよ。さて、今回の大会の目玉は何と云っても大瀧神父様と成井司教様の対談形式の講話でした。私は個人的にお二人の大ファンなので、すごく楽しみでした。テーマはシノドスと優先課題についてでしたが、お二人の好い内容だけじゃなくて、お二人の好きな食べ物とかこんなアニメを見て育ちました的な話もちょっと盛り込みました。同じ意見の信者さんも多いと思いますよ。お二人の対談の中でシノドスの経緯や地区の問題がとても簡潔に分かりやすく語られました。多国籍の信者が

集まって共同体としてひとつになるためにはどうしたらよいか、信徒の高齢化にどう対応すべきなのか、地域社会で宣教するってどうしたらいいのか等いろいろ考えさせられました。そう思いつつ一緒に参加していた移住者や高齢の信者さんの様子を何気なく見ていたら、「オンラインだと声が響きすぎて逆に聞こえないから話の内容が分からない」と早々に退出していかれました。オンライン大会にも地区の問題が如実に反映されていたようです。様々な場面で相手の立場になって考えたり、事前に予想される問題への対策を検討したり、多様性に応じた工夫等が必要なのではないか、実際にはなかなか難しいものだなあとつくづく感じました。

第21回カトリック新潟教区信徒大会が開催されます

- 1. 期日 2022年10月23日(日) 9時30分～
- 2. 会場 カトリック長岡教会
- 3. テーマ 「新潟教区を繋ぐ 次世代に向けて」

コロナ禍のためZoomによるオンライン形式で開催されます。下記の教会がZoom参加となります。申し込み不要ですので近くの教会で気軽にご参加ください。

- 《秋田地区》 秋田教会 大館教会 土崎教会
本庄教会 能代教会 横手教会
聖体奉仕会
- 《山形地区》 山形教会 鶴岡教会 米沢教会
- 《新潟地区》 新潟教会 寺尾教会 亀田教会
- 《新発田地区》 新発田教会 見附教会
三条教会 (加茂教会と合同)
- 《長岡地区》 長岡教会 柏崎教会 直江津教会
高田教会 妙高教会 クララ会
糸魚川教会

問合せ先 実行委員会 事務局 澤田 豊
 TEL 090-5540-3561
 mail yutaka_sawada2780@yahoo.co.jp
 所属 長岡地区 高田教会



長岡地区平和を求め祈りに参加して…

直江津教会 ヨゼフ 太田稔哉

毎年8月には日本カトリック教会は平和旬間を6日から15日にかけて行われています。長岡地区では長岡空襲や上越市の直江津捕虜収容所でも多くの人々が犠牲になりました。この平和旬間に併せて長岡地区として平和を求め祈りをオンラインで繋いで行いました。それぞれの戦時中の説明や、各小教区による共同祈願、司教様からのメッセージ、教会学校の子供たちによる「フランシスコの平和の祈り」の歌があり閉幕しました。長岡空襲の説明では長岡空襲の後、広島、長崎に原爆が落とされましたが、長岡も空襲の前の7月20日に大型爆弾が投下され、後に模擬原子爆弾だったことが判明したとの話がされていました。捕虜収容所では、厳しい寒さと、食料不足による飢え、厳しい強制労働を強いられる多くの人々が亡くなり、また戦後は戦争裁判で収容所に勤めていた軍人と警備員が戦犯として処刑されて

います。

つい最近までは、戦争を知らない私にとって過去の戦争の悲惨さあまり伝わらないというか、実感として感じていなかったのが正直なところでした。自分で体験していないためか、どこか他人事で自分事としてとらえていなかった気がします。ただ今年になってロシアによるウクライナへの無差別の軍事侵攻を目の当たりにして、現実今起きていることを見せられた時に、本当に悲劇で、悲惨で、何とも言い難い感情が溢れました。今日長岡地区での平和の祈りを通して、過去の戦争においても、同じく苦しい思いをして、犠牲になった人々がいたということを実感しました。過去の痛ましい戦争、犠牲になった人々がいるという事実を風化させてはならないと思いますし、犠牲になった人々たちへの祈りを続けていかなければならないと思いました。過去は変わらないですが、この世界で今現在起きている戦争を無くすことは出来ると思います。一日も早く戦争がなくなり、全世界が平和になることを願う祈りしたいと思います。

